

研修マニュアル（第3内科） ver.1.0

(2023/1/26 作成)

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟業務 予約外受診対応 外来見学	病棟業務 予約外受診対応 外来見学 内分泌負荷検査	病棟業務 予約外受診対応 外来見学	病棟業務 予約外受診対応 外来見学	病棟業務 予約外受診対応 外来見学		
午後	全体カンファ 教授回診 論文抄読会 研究プロGRESS	甲状腺エコー 予約外受診対応 NST 回診	甲状腺エコー 予約外受診対応	予約外受診対応	症例検討会 多職種カンファ	できたら 1日1回 回診	
夜							

上記に加えて、所属チームごとにチームカンファが週1回あります

◎到達目標

※研修医個々の能力および研修に対する態度によって到達度は変化します

第3内科研修時の到達目標の目安

【知識】

- ・糖尿病をはじめとする代謝疾患について、一般的なことを理解できる
- ・甲状腺疾患や下垂体疾患など、内分泌疾患について、一般的なことを理解できる
- ・関節リウマチなどの膠原病類縁疾患について、一般的なことを理解できる

【技能】

- ・病棟における血糖管理を、内服薬やインスリンを使用し基本的な対応ができる
- ・甲状腺疾患や副腎不全など、頻度の多い内分泌疾患に基本的な対応ができる
- ・電解質異常や低栄養など、頻度の多い代謝疾患に対し基本的な対応ができる
- ・関節リウマチなどの膠原病類縁疾患に対し、基本的な対応ができる

8 週間研修における追加技能目標

- ・特殊な耐糖能異常（周術期・重症管理・高血糖緊急症）に対する対応ができる
- ・生活習慣病の状態・背景に併せて生活・栄養支援を実践できる
- ・自己免疫疾患領域におけるステロイドや免疫抑制剤の使用法・リスクを理解できる

【技術】

4 週間：甲状腺エコー 5 例、インスリン皮下注・血糖測定 多数例、関節所見 5 例

8 週間（適宜）：甲状腺エコー（穿刺介助）、中心静脈カテーテル、腰椎穿刺

◎病棟業務

研修開始前には研修医対応責任者まで連絡をお願いします。基本的には病棟における各診療チームの一員として研修をすすめていきます。担当症例はチーム内にてリーダー・サブリーダーが相談しつつ適宜割り当てます。希望に応じてチーム間をまたいだ指導も行いますので、気軽に申し出てください。

担当患者さんには礼節を踏まえたうえで病歴聴取、身体診察を行い、各種検査結果も踏まえて入院時サマリを記載してください。日々の回診は朝・夕の最低2回を推奨しています。土日もどこかで一回程度の回診を行うことを推奨しています。

指導医の指示に従うだけでなく、「病棟主治医」として積極的に患者さんの診療に対し取り組むようにしましょう。患者さんの教育支援や様々な不安に対する回答なども、指導医・看護師・薬剤師・管理栄養士より学びつつ、自らも実践していきましょう。

◎患者教育・支援

担当患者さんの教育支援や様々な不安に対する回答なども、指導医・看護師・薬剤師・管理栄養士より学びつつ、自らも実践していきましょう。

糖尿病公開教室や、糖尿病チームによる糖尿病教育プログラム(医師・看護

師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師によるミニレクチャー)にも積極的に参加しましょう。参加経験に応じて、我々の支援のもと講師を担当してもらうこともあります。

◎予約外受診対応

チーム内の医師が OnCall 当番の際の、予約外受診の対応をお願いします。初期対応の後に、OnCall 医師に原則必ず相談のうえで方針を決定し、対応してください。もちろん緊急性を認めた場合は直ちに連絡するようにしましょう。

◎外来見学

希望に応じて適宜、外来見学が可能です。外来担当医はそれぞれ専門（糖尿病、内分泌、リウマチ膠原病など）により、患者さんの数・内容が大きく異なるため、学びたい分野があれば積極的に申し出てください。

◎NST 回診

NST(Nutrition Support Team)の病棟カンファ・回診を、火曜日 15 時から（病院全体）、および多職種カンファ（病棟 NST）にて行っているため、参加してください。栄養管理の重要性を理解し、低栄養の改善を実践できるようにしましょう。

◎カンファレンス・教授回診

受け持ち症例はすべてプレゼンテーションをしてください。毎週月曜日の全体カンファレンスは週間サマリをもととし十分な議論を行きましょう。また教授回診時に短時間で説明できるよう、ショートサマリー(30秒程度)もまとめておきましょう。多職種カンファ・チームカンファにおけるプレゼンテーションは、入院目的、現在の問題点、重要な検査、治療、結果、方針、退院予定を簡潔にまとめるようにしてください。

◎症例検討会・学会発表

毎週金曜日の症例検討会では、学びの多い症例について、学会と同様の形式で症例および考察をプレゼンテーションし、最新の文献に基づく解説をおこなっています。研修中に1-2回は必ず担当してもらいますので、記載の仕方や文献検索の進め方、考察の作り方などを学んでください。

8週間以上の研修の場合、この症例検討会の発表を基に内科地方会などの学会発表を可能な限り支援します。初めての発表でも十分にサポートしますので、機会があれば積極的に発表につなげていきましょう。

◎サポートおよびトラブル発生時の対応

わからないこと、困っていることがあったら、インシデント・アクシデントを招く前に必ず上級医に相談し、対応を学びましょう。直接の上級医不在であれば、研修医対応責任者に相談しても構いません。休暇などを申請する場合は、所属するチームリーダーに連絡してください。

第3内科で経験が望ましい項目

	基本的技能	日付	回数
A	指導医とともに血糖自己測定、自己注射の指導を行う		
A	指導医とともに低血糖時の対処法の指導を行う		
A	指導医とともに甲状腺エコーを行う		
A	指導医とともに関節所見を評価・カルテに記載する		
A	NSTカンファレンスに出席する		
A	糖尿病教育プログラムに参加する		
B	指導医とともに内分泌負荷試験を行う		
B	指導医とともに糖尿病教育プログラムでの講師を担当する		
C	甲状腺細胞診を見学し、介助する		
	基本的疾患の診察		
A	糖代謝異常の患者を担当する		
A	内分泌疾患の患者を担当する		
A	リウマチ・膠原病類縁疾患の患者を担当する		
B	その他の代謝異常(脂質・電解質・肥満)の患者を担当する		
B	緊急対応が必要な患者を担当する		

	具体的な診察		
A	(入院)病歴聴取・理学所見の評価を行い、カルテに記載する		
A	(入院)適切な血液・生理・画像検査をオーダーする		
A	(入院)プロブレムリストを立案し、アセスメントを行う		
A	(入院)カンファレンスにおいてプレゼンを行う		
A	(入院)教授回診においてプレゼンを行う		
A	(入院)チームカンファにてプレゼンを行う		
A	(入院)多職種カンファにてプレゼンを行う		
A	(入院)静脈採血・静脈ルート確保を行う		
B	(入院)ステロイド等の高リスク薬の説明を指導医とともに行う		
A	(入院)退院時の説明を指導医とともに行う		
A	(外来)予約外受診患者の初期対応を行う		
A	(外来)外来見学を行う		
C	(外来)初診患者の病歴聴取・理学所見評価を行う		
A	症例検討会においてプレゼンテーションを行う		